9 de Novembro de 1918 No. 62

Noticias do Brazil

大正七年十一月九日　土曜日　第六十二號

伯剌西爾日報

NOTICIAS DO BRAZIL
Publicado semanalmente
Rua Conselheiro Furtado No. 89
Caixa Postal H
S. Paulo, Brazil
Proprietario e editor
Seisaku Kuroishi

Assignaturas
por Anno ..... 10$000
,, Semestre ..... 5$500
, Mez ..... 1$000
,, Semana $300

兒童教育問題（下）

若し夫れ前述の教育方針が是認せられ、父兄また兒童教育の大切なるを自覺するに於ては、正確に在留民を代表するところの公共團體ー若しくは未だ此の種の團體なくば設立するとしてーが起つて、之が實行方法を講ずべきは、日下の急務である。

尤も方法と云ふも程度問題であつて、最初から完全を期することは困難であるが、伯剌西爾式の教育は、伯國州政府の教育令に基くとして、日本語の教科書編纂だけは成るべく完全に近いものを作りたいものである。現在我が國に採用されてゐる尋常小學教科書を見るに、其の多くは、意味徐りに狹隘で且つ消極的である爲めに、到底世界的氣氣の中に成長する在外兒童には不適當であるのみならず、材料の選擇は徹頭徹尾日本式たるを免かれざるが故に、習慣、風土の異なる伯國に在る我が兒童には、全く不了解の點が尠なくないのである。

教科書の中でも讀本の如きは、其の目的は讀むべき材料にあるのではなく、讀む力を附ける即ち書物を容易に讀み得る樣にすると云ふ點にあるのであるから、人或は此の理由から材料の選擇の如きは、敢て吟味するの要なしと云ふかも知れぬが、然し之も程度問題で、全然不了解のものを捉へて、之を兒童の頭腦に注入するところは有害無益で、殊に人格を作えるところの修身書に至つては、其の材料の選擇如何に依つて、逆効の結果を來すことは最も必要なことである。

次に學校の事に關し一言せんに、

●聖市の流行感冒

◈日を追ひ傳染倍々急
各學校臨時病院に化す◈

去月十六日當市に流行感冒患者發生するや當局も市民も之が撲滅と豫防とに百方苦心せることは既に報道したる處なるが一と度侵入せる惡疫は行く所まで行かざれば止まらぬものと見へ其の後日を追ひ傳播倍々激烈にして必死の豫防も殆んど其の効なく十六日以後七日までの患者及び死亡數を擧ぐれば實に驚くべきものがある

患者

日附	人數
一六	二九
一八	一七九
二〇	三五八
二二	九八二
二四	一、八〇五
二六	三、四六二
二八	二、八六七
三〇	四、八八七
一	四、一八〇
三	五、三七一
五	六、九八五
七	七、二三〇

合計　七四、四九五人

死亡者

日附	人數
一七	二
二二	一
二四	一六
二六	九
二八	二九
三〇	六二
一	九一
三	一四二
五	一七〇
七	二四九

合計　一、四五一人

▲臨時病院　右の如く日々數千の新患者現はるゝや之が收容に窮したる當局は窮餘の窮策として移民收容所も各學校も皆な一齊に臨時病院に充て其の建物も昨今は階上階下悉く寢臺それに其の上自働車は數限りもなく新患者を運び來る光景は見るも何んとなく物凄い感がする

▲赤十字社の大活動　敵も味方も平等に救ふと云ふ人道の神なる赤十字社は今回の惡疫流行にも非常な働きにて人の怖るゝ患者の收容にも看護の務めにも其の甲斐〳〵しい活動振りには何人も感謝の念を起さずには居られない

▲國民協會も大活動　社會のことと云へば何を措ておいても力を盡さずには置かない伯人の性として市民の組織せる國民協會も赤十字社と共々に大活動を開始し患者の介抱は勿論のこと市民の同情心に訴へて金品の寄附を募るやら細民患者を救助するやら其の活動振りの慈善深さに感服しない者はない

▲コロニヤの美擧　又此の國に最も人數の多き伊太利人及びシリヤン人のコロニヤは流行感冒の蔓延益々烈しき處より公衆の難を救ふは此の時なりとして昨今各所に救護所を設けて市民の爲めに盡力し居るは麗はしきことである

▲少年隊の活躍　殊に目立つは少年隊綠廣の帽子勇ましく藥品、食料品の配付、電報配達の任務引受等の走り使ひであるが少年に至るまで社會に對する犧牲的精神の旺盛なるには感心するの外なし

▲醫師の不足　今回當市に設置されたる臨時病院の數は三十四又其の外救護所三十六、工場救護七にして何所も患者滿員なれば醫師の不足は當面の大問題さりとて俄か仕込も出來ぬもの唯だ自動車を走らせて晝夜兼行の苦役は醫師に對して洵に氣の毒である

▲流車及び電車の遞減　機關手、車掌、運轉手等の惡疫に犯さるゝ者次第に其の數を增し是れ俄か雇いにては間に合はざる仕事とて鐵道會社も電車會社も運轉回數を遞減し昨今電車を待つこと一時間にして尙は乘車し能はざる有樣なり文明の利器も爰に至つて不便此の上もなしとでも云ふべきか

▲電話不通　交換手全滅とは少と大袈裟なるも實際電話は眼の前にぶら下がつて居りながら何の用も爲さざるは事實にして殊に醫師を呼ぶに態々出懸けざるに於ては用を辨せざる有樣にて其の不便云はんかたなしである

▲郵便物の停滯　此の騷ぎにては郵便局も御多聞に洩れずで郵便物を局内に積み嵩ねて局員の全快出勤を待つとは一應無理もないことではあるが何とか方法の有りさうなものではあるまいか聞く所に依れば今の欠員を補ふには平素の三位以上の人を雇ふに非ざれば方法つき難しとのことなるがせめて其の半分だけも屋入れて欲しいものである現に我が社の「時報」も三進間分が局内に停滯とは情けないことである、

▲新聞社の寄附金募集　惡疫全市に蔓延して各階級を襲ひつゝある中にも其の日働きの勞働者階級は頗る窮境に陷り困難名狀すべからざる者少なからずすて當地横字新聞エスタード及びファンフーラ紙共同して寄附募集を開始せるが貧民救助の爲め昨日迄集まれる寄附金左の如し

エスタード紙取扱
百四コントス二百八十四ミルレース

ファンフーラ紙取扱
十三コントス三百ミルレース

合計　百十七コントス五百八十四ミルレース

▲各自の注意　當市に於ける流行感冒の猛烈さ加減大體以上の如くであつて該病より更に餘病を引き起して死に陷ひるものも少なからざれば各自豫め注意して惡疫に罹らぬ樣にするが肝要である但し感染した場合は醫師若くは附近の臨時病院又は救護所に至り診察を乞ひ醫命に從ふことを怠つてはならぬことである。

サンタカーザ寄附者芳名並金額（第廿二回）
（八月廿日迄ノ分）

○カタンヅバ驛アゲワクララ
一金三十ミル　西村要馬

○アルアケルキ、リンス驛サンタアナ
一金七ミル　江川直作
一金三ミル　佐藤與平次
一金三ミル　三浦忠吉
一金二ミル　三浦精三

○サンパウロ市
一金十ミル　沖川祐吉
一金十ミル　沖川芳槌
一金五ミル　城間佐一郎

（本田末吉氏取扱）
一金五ミル　本田末吉
一金一ミル　上原龜助
一金一ミル　安里吉行
一金一ミル　當銘新一
一金一ミル　宮平正藏
一金一ミル　金城樽
一金一ミル　前里次郎
一金一ミル　平良良能
一金一ミル　和宇慶松
一金一ミル　安里加那
一金一ミル　殿内登太

○リオ市
一金九十ミル　蜂谷吾輔
一金二十五ミル　蜂谷健九郎
一金二十ミル　丹羽藤藏
一金二十ミル　福原庄五郎
一金五ミル　伊東硬一

○イバラ驛ジヨセーバーロス
一金十ミル　平田伊平

○レスチンガ驛サンフランシスコ
（山下市次氏取扱）
一金三ミル　山下市次
一金三ミル　志水綱喜
一金二ミル　中野鶴喜
一金二ミル五百　川津仙太郎
一金二ミル五百　山下小市

○マトグロソ州カンポグランデ
一金十ミル　親泊寛秀
一金十ミル　知念龜
一金十ミル　玉城眞吾
一金五ミル　古謝國禎
一金五ミル　安里德良
一金五ミル　宜保勇福
一金五ミル　宮城景春
一金五ミル　大城次郎
一金二ミル五百　城間鐵夫
一金二ミル五百　仲順八五郎
一金二ミル　比嘉稻牛
一金二ミル　大城德
一金二ミル　比嘉稻厚
一金二ミル　新垣松
一金二ミル　玉里幸一
一金二ミル　瑞慶覽牛
一金二ミル　大城加那
一金二ミル　宮城眞翁
一金二ミル　照屋牛
一金二ミル　金城儀平
一金二ミル　新垣稻長
一金二ミル　知念蒲
一金二ミル　新垣三良
一金二ミル　奥間政廷
一金二ミル　太田興久
一金二ミル　外間三良
一金二ミル　大城幸喜
一金二ミル　比屋根方謙
一金二ミル　比嘉蒲助
一金二ミル　太田德
一金二ミル　喜屋武龜三
一金二ミル　宜名間邑一
一金二ミル　島袋蒲
一金二ミル　宜保弘濟
一金二ミル　大城蒲戸
一金二ミル　宜保三郎
一金二ミル　大嶺太郎
一金二ミル　湧川龜千代
一金一ミル五百　前川益
一金一ミル五百　島袋三良
一金一ミル五百　源河要吉
一金一ミル五百　同要助
一金一ミル五百　比嘉三良
一金一ミル　宮平市正
一金一ミル　同貞市
一金一ミル　宮城清次郎
一金一ミル　平良福正
一金一ミル　平良三郎
一金一ミル　比嘉龜
一金一ミル　與座敬三郎
一金一ミル　照屋龜次
一金一ミル　同順幸
一金一ミル　島袋龜
一金一ミル　大城乙之助
一金一ミル　新垣美三郎
一金一ミル　菊池公雄
一金一ミル　玉城禮平
一金一ミル　金城福三郎
一金一ミル　宮平市助
一金一ミル　瑞慶村知壽
一金一ミル　新垣山
一金一ミル　比嘉牛千代
一金一ミル　池原次郎
一金一ミル　小波津蒲
一金一ミル　源河幸助
一金一ミル　仲尾權四郎
一金一ミル　新垣稻吉

小計金三百七十二ミルレース也
累計金十二コントス三百四十九ミル六百レース也

伯國日本人青年會

伯剌西爾拓殖會社「イグアペ」植民地

◉當植民地は醫師、獸醫、農業技師、測量技手、園藝得業士等常置し植民の保護誘掖上必要なる組織を有す
◉當植民地は道路四通八達交通自在なり
◉當植民地に於ては新來植民は耕作時期まで日雇又は請負の勞働に從事することを得
◉當植民地には資力乏しき者にても自作農業爲し得る方法あり

「イグアペ」植民地視察者の爲め「サントス」より植民地本部「レヂストロ」に到る道案内

◉汽車の「サントス」發は每週月曜日水曜日（午前九時二十分）土曜日（此日だけ午前七時）にして其「ジユキア」着は午後四時
◉此間の貳等運賃は十弗百レイスなり
◉「ジユキア」には停車場近くに小旅店二軒あり。宿料參弗內外なるが投宿の際取極め置く方宜し。
◉翌朝汽船又はガゾリンランシヤにて「ジユキア」を立てば當日「レヂストロ」に到着すべし
◉此間運賃參弗なり

告示

今般當館に於て在留日本人土地所有者名簿を作成候に付土地所有者は至急左記の事項を屆出相成たし

一、原籍　姓名
一、土地の所在地及最近停車場名
一、土地の面積及買入地價
一、地價全部拂込濟の上地券所有の有無
一、年賦拂込の者は其拂込の方法及契約の時日幷に拂込濟金額

右告示す

在サンバウロ市
帝國總領事館
Caixa Postal 1167
S. PAULO.

朝陽軒
理髮師　吉村武
聖市コンデ街

◉日本近信

◉西伯利の花と散つた
最初の戰死者遺骨
許斐少佐以下二十三名

○○丸にて一日朝門司に着す

◆我西伯利派遣軍で先頭第一に名譽の戰死を遂げた許斐少佐、同砂本特務曹長を始め二十四名の戰死者の遺骨を載せて八月二十九日午前浦潮を發し一日午前零時三十分門司港外六連島に到着した運送船○○丸は靜かに朝霧を破りつゝ徐行して午前七時四十分門司港に錨を投じた

◆記者は直に同船を訪うて將卒の遺骨に敬弔の意を表したが遺骨は孰れも方八寸許りの白木の杉の箱に納められ船尾サロンの事務室即ち輸送指揮官の船室に充てられた一室にホンの形許りなる祭壇設けられ船員の志にて林檎を盛つた一皿とアカザ一枝が手向けられてあつた

◆其の外許斐少佐の遺品なる軍帽、肩章、靴、圖嚢、水筒、短銃、雙眼鏡、卷脚絆、萬年筆、手帳、洋刀は鐮詰の空箱に入れられ又砂本特務曹長の遺留品たる背嚢、卷脚絆、水筒飯盒、夏マント、日記は是も同じく鐮詰の空箱に入れて到着した

◆兵站基地司令部からは副官酒井大尉が運輸部臨時出張所からは益田少佐が下關重砲兵第二旅團長横山少將が出迎へ酒井大尉は船長から二十四名の遺骨を受取り之を運輸部のランチに移して午前十一時稅關棧橋に上陸した

◆此處には東西兩本願寺出張所の僧侶男女信徒團が紫繻絆に其の團體の名を記した數旒の旗を押立てゝ其の列に加はり遺骨は白木の輿に載せられ騎馬將校を先頭として憲兵分遣隊長之に次ぎ遺族及び親族市有志の面々數百名二丁に餘る列を立てゝ本願寺出張所へ繰込まれ本堂では讀經が始まると遺族の淚か乾く暇はなかつた

◆斯くて白骨と化した勇士の靈は三日午後二時十五分門司發列車にて同二時三十五分小倉驛着の豫定であるが其の人名は左の通りである但し其も『明日より三十にて販賣す』との貼札をなし

◆又千名ばかり其の一隊は横町兵神館（借家管理業）を襲ひガラス窓は勿論門までも滅茶々々に破壞し更に他所、商業會議所、相生橋署等の大建築も遂に烏有に歸したるが附近の一千名許りは東川崎町米商市會議員丹波助次郎方を襲ひたり

◆それより民衆は東川崎町四丁目鈴木商店を襲ひたるがこれよりさき警官隊は鈴木商店の危險を慮かり多數の正服巡査を派し警戒中なりしが午後八時頃同店門前へ多數の群衆押寄せ來り瓦礫を投じ硝子窓を滅茶々々に破壞し時々ワーワーと鬨聲を揚げつゝありしが斯かる間に一人の身輕な男猿の如く雨樋を傳ひ二階に上り店の燃え上りたるに氣をいらだて十時頃より湊川遊園地を指して押掛け來りて諸帳簿其他重要書類等を附近の相生橋署に擔ぎ込み居れり而して神戸檢事局よりは檢事二名相生橋署に出動して警官隊を指揮し犯人の檢擧に着手せるも全市到る處の米屋は襲はれ全市を擧げて騷擾混亂を極めたる立派な紳士に嫌疑が掛り同紳士が下十以下十九人の兵士を率る敵狀並に地形偵察の任務を帶びスパスカの兵營を出でゝ汽車でスワヤイス驛に向ひました、出發に先立ちて河村橫谷の小路から二中隊一個中隊長殿から『皆は決して生還を期してはならぬ皆と顏を合せるのも是れ限りだ……』としみ〴〵とした訓戒がありました、少尉殿は之に對し『誓つて任務を完うしなければ生きて還りませぬ』と答へました、汽車に搖られて行く間でも死に行くよりも

◆斯くて白骨と化した勇士の靈は三日午後二時十五分門司發列車にて同二時三十五分小倉驛着の豫定であるが其の人名は左の通りである但し其

◆我西伯利派遣軍で先頭第一に名譽の戰死を遂げた許斐少佐、同砂本特務曹長を始め二十四名の戰死者の遺骨を載せて八月二十九日午前浦潮を發し一日午前零時三十分門司港外六連島に到着した運送船○○丸は靜かに朝霧を破りつゝ徐行して午前七時四十分門司港に錨を投じた

◆記者は直に同船を訪うて將卒の遺骨に敬弔の意を表したが遺骨は孰れも方八寸許りの白木の杉の箱に納められ船尾サロンの事務室即ち輸送指揮官の船室に充てられた一室にホンの形許りなる祭壇設けられ船員の志にて林檎を盛つた一皿とアカザ一枝が手向けられてあつた

◆其の外許斐少佐の遺品なる軍帽、肩章、靴、圖嚢、水筒、短銃、雙眼鏡、卷脚絆、萬年筆、手帳、洋刀は鐮詰の空箱に入れられ船員の志にて林檎を盛つた一皿とアカザ一枝が手向けられてあつた

◆其の外許斐少佐の遺品なる軍帽、肩章、靴、圖嚢、水筒、短銃、雙眼鏡、卷脚絆、萬年筆、手帳、洋刀は鐮詰の空箱に入れられ又砂本特務曹長の遺留品たる背嚢、卷脚絆、水筒飯盒、夏マント、日記は是も同じく鐮詰の空箱に入れて到着した

◆兵站基地司令部からは副官酒井大尉が運輸部臨時出張所からは益田少佐が下關重砲兵第二旅團長横山少將が出迎へ酒井大尉は船長から二十四名の遺骨を受取り之を運輸部のランチに移して午前十一時稅關棧橋に上陸した

◆此處には東西兩本願寺出張所の僧侶男女信徒團が紫繻絆に其の團體の名を記した數旒の旗を押立てゝ其の列に加はり遺骨は白木の輿に載せられ騎馬將校を先頭として憲兵分遣隊長之に次ぎ遺族及び親族市有志の面々數百名二丁に餘る列を立てゝ本願寺出張所へ繰込まれ本堂では讀經が始まると遺族の淚か乾く暇はなかつた

◆斯くて白骨と化した勇士の靈は三日午後二時十五分門司發列車にて同二時三十五分小倉驛着の豫定であるが其の人名は左の通りである但し其も『明日より三十にて販賣す』との貼札をなし

◆又千名ばかり其の一隊は横町兵神館（借家管理業）を襲ひガラス窓は勿論門までも滅茶々々に破壞し更に他所、商業會議所、相生橋署等の大建築も遂に烏有に歸したるが附近の一千名許りは東川崎町米商市會議員丹波助次郎方を襲ひたり

◆それより民衆は東川崎町四丁目鈴木商店を襲ひたるがこれよりさき警官隊は鈴木商店の危險を慮かり多數の正服巡査を派し警戒中なりしが午後八時頃同店門前へ多數の群衆押寄せ來り瓦礫を投じ硝子窓を

◉醋酸石灰の前途（上）

林學博士三村鏞三郎氏は日本の工業原料自給の一として醋酸石灰産出奬勵を唱道して居るゝが當伯剌西爾の如く山林に富み燃料として重に木炭を使用する國に於ては少しく工夫を凝して醋酸産出を遣るならば餘程面白い且つ有利な事業だと思ふから之を讀者諸君に紹介する事にした、（一記者）

工業原料の自給乃至獨立と云ふことは、歐洲戰亂後連りに稱道せられて居り、重立つたものは多少其の方法は講ぜられて居る樣であるが、其他のものに至つては閑却されて居る之れは確に缺陷である。

特に小工業的乃至副業的に經營さるべきものは、殆ど統一を缺き、之に加ふるに其の使用者が目前の利益に眩惑して原料の良否を鑑別せず、其の價格を或は暴騰暴落せしむるので之が製造者の惡習を助長し不良品を製産せしむる樣になつて居るから、若し船腹不足なる堰堤が撤回せられたら、我製品は忽ちに彼の製品に蹂躙し去らるゝものが尠くない其の一倒は醋酸石灰である。

我國の製炭額は三億萬貫である、然し世界に於ける木材の缺乏は益々顯著になつて來るから、出來る丈け木材は節約をしたい之れは一年生の農作物、即ち米、麥、大根、豆等が昨年は凶作でも、今年の豐作で取り返へせると云ふのとは異なつて、十年生の林木の十數本は、容積の合計で同樣であつても、五十年生の一本の林木に代用することは出來ない。

箇樣な譯で一度世界に於ける木材が缺乏することゝなれば米や麥の缺乏より悲慘な現象を生ずるから、此點に鑑みて木炭の如きも、出來得る丈け節約して成る可く、用材を生産させる樣にしたい、然し夫れにしても一方に燃料たる石炭の前途も悲觀されて居るから、木炭の代りに石炭を使へとも言へなくなる、況んな石炭は人工では造り難いが、炭材は十數年で育成することが出來るから、此點も亦た考へねばならぬ。

が兎に角出來るだけ木炭も浪費を愼むとして假りに將來は暫らく一億萬貫の木炭が我國に年々需用さるゝとすれば、此木炭を産出奬勵改善の位置に立つ時に醋酸石灰は自然に生産することが出來、若し乾餾法に依るとすれば木精も同時に生産せしめることが出來るのである、そこで木炭の種類は色々あり、用途は異なつて居るが木材節約上歐式乾餾窯の木炭即ち、土窯炭で凡ての使用者が我慢するとすれば、一億萬貫の木炭を生産するとの同時に、八十%の醋酸石灰二千四百萬貫と、三千八百萬磅の粗木精が産出せらるゝことになる、假りに和式乾餾窯が、此等木炭の製造に凡て用ひられ、國民が白炭で我慢するとなれば、七十%の醋酸石灰二千八百萬貫と、粗木精二千八百萬磅が副生することゝなり終りに單に製炭のみを目的として其の煙を利用すれば、一億萬貫の木炭産出に對し、尠くとも七十%內外の醋酸石灰六百萬貫を産出することが出來る、斯の如く我國民必須の木炭産出に對し、心すれば巨額の醋酸石灰や粗木精を副生し得て、其の及ぼす影響は至大である、歐洲戰亂後自給自足の絶叫さるゝ中に人造染料が數へらるゝ、此人造染料中人造藍を遺憾なく産出するが爲めには百萬磅の醋酸を要する、然も人造染料自給を絶叫し畫策するものが、一言醋酸の自給に及ばないのは不思議である、其の他鼠病消毒の「フオルマリン」製造用の木精も四百五十萬磅は入用だと云ふのみで、粗木精の自給策は畫策せられぬ、電氣博覽會で首肯された如く、我被覆電線製造業の發達顯著なるものあつて、其裏面に「アセトン」無水サク酸の如き、サク酸石灰の製品が重要の任務を盡して居ることに氣付かないのは確に我工業政策の缺陷である、斯樣に木材乾餾工業は我重要なる化學工業の發展の上に至大の關係を持つて居るに係らず、其發達に就ては毫も顧慮せられず統一せられて居らぬ我最初でも一日に一升以上も飮みますワ。』

貫目もあるんですから、お乳だつて馬の壯馬つてのは如何位ゐ食べるんでしよう。』

『本實ヲヂエ、併し馬の乳汁つて甘味もんか知ら。』

『ええ花子さん、馬の乳汁は甘いのよ、牛乳よりも、人間のよりも、ズツト甘いのよ、只だ乍、牛見たいに多量に泌乳いから、人間迄も飮む事は出來ませんが、土耳古の北にある高架索地方では、馬の乳汁から酒を造つて飮むんですつて。』

『夫れこそ珍らしいわ乎、ぢや一體馬の壯馬は一日に大麥五升と藁や草を二貫目位も食べるんですつてだから全部な目方で計ると、三貫目位の者を食べるのヨ其れに水を一日一斗から二斗位も飮むんですもの。』

『マア、驚いタ、夫りや乎大變ね、私なんか一日に御米を只ツた三合位に水を五合位しか飮まないから、左樣す。』乞食が自殺でもし兼まじき樣子でしたから、通行人は十錢銀貨を一個投げてやりますと、乞食は丁寧にお辭儀をして

『誠に有難う存じます、私は今朝から喰べずにをりますから、旦那樣から頂きませんと、仕方なしに働かうと覺悟を定ましたので御ざいます』

教はりに來たのですから答へる理由はないと思ひます』と云つた。

◆乞食の根性

乞食通行人に向つて『モシ旦那樣少々頂かせて下さいまし、恵んで下さいませんと、私に覺悟が御座いません、再び米國品の輸入難でしたから、通行人は十錢銀貨を一個投げてやりますと、乞食は丁寧にお辭儀をして

『誠に有難う存じます、私は今朝から喰べずにをりますから、旦那樣から頂きませんと、仕方なしに働かうと覺悟を定ましたので御ざいます』

◆猿の仇討

子供倶樂部

明治の初年、山形縣の新庄で、可哀さうな猿まはしのお爺さんが、惡者の爲めに殺されましたが、それを見て居た飼猿が、ひそかに惡者のあとをつけて、町から二里ばかりはなれた雜木山に死骸を埋めたのを見屆け、警官を引張つて雜木山と惡者の家に案內しまんまんと主人の仇を復した話がばかりか、冬枯の山から梅ぼしけの實を澤山に取つて來て、それを猿まはしのお墓にさゝげ、其前にひざまづいた儘冷めたくなつて死んで居たといふ事がありましたが、それによく似よつた話が昨年マレイ半島の、ゴム林の中から傳へられました。

それは支那人の猿使ひが土人の爲めに計られて、お金ばかりか大切な生命まで奪はれて了つたので、お猿さんも殘念でたまらず、土人が河の中に投げ込んだ死骸を引きあげて之を砂中に埋め、通りかゝつた英國人の袖を引いて死骸を置いてある場所と土人の家へ案內し、首尾よく土人の無念をはらしたといふので、同地方では大へんな評判ださうであります

◆答へない理由

數師算術の時間に『太郎さん、十から八を減けば何程殘ります？』

太郎モジ〳〵して『僕は先生を敎へに來たんではありません、先生に

仔馬問答（下）

尾崎葬山

『私し獸醫でなくてよ、そんなことは知らないワ。併し其れは兎も角も、仔馬と云つても隨分大きいから、お乳なんか澤山飮むでしやう乎。』

『ようよ、仔馬と云つても目方が九

仔馬問答（下）

尾崎葬山

『私し獸醫でなくてよ、そんなことは知らないワ。併し其れは兎も角も、仔馬と云つても隨分大きいから、お乳なんか澤山飮むでしやう乎。』

『ようよ、仔馬と云つても目方が九貫目もあるんですから、お乳だつて最初でも一日に一升以上も飮みますワ。』

『オヤ、大變乎、九貫目もあつちや人間の輕い大人程もあるの乎、一升飯や草を二貫目位も食べるんですつてだから全部な目方で計ると、三貫目位の者を食べるのヨ其れに水を一日一斗から二斗位も飮むんですもの。』

『マア、驚いタ、夫りや乎大變ね、私なんか一日に御米を只ツた三合位に水を五合位しか飮まないから、左樣す。』乞食が自殺でもし兼まじき樣子でしたから、通行人は十錢銀貨を一個投げてやりますと、乞食は丁寧にお辭儀をして

『誠に有難う存じます、私は今朝から喰べずにをりますから、旦那樣から頂きませんと、仕方なしに働かうと覺悟を定ましたので御ございます』

◆乞食の根性

乞食通行人に向つて『モシ旦那樣少々頂かせて下さいまし、恵んで下さいませんと、私に覺悟が御座いません、再び米國品の輸入難でしたから、通行人は十錢銀貨を一個投げてやりますと、乞食は丁寧にお辭儀をして

『誠に有難う存じます、私は今朝から喰べずにをりますから、旦那樣から頂きませんと、仕方なしに働かうと覺悟を定ましたので御ございます』

◆猿の仇討

子供倶樂部

明治の初年、山形縣の新庄で、可哀さうな猿まはしのお爺さんが、惡者の爲めに殺されましたが、それを見て居た飼猿が、ひそかに惡者のあとをつけて、町から二里ばかりはなれた雜木山に死骸を埋めたのを見屆け、警官を引張つて雜木山と惡者の家に案內しまんまんと主人の仇を復した話がばかりか、冬枯の山から梅ぼしけの實を澤山に取つて來て、それを猿まはしのお墓にさゝげ、其前にひざまづいた儘冷めたくなつて死んで居たといふ事がありましたが、それによく似よつた話が昨年マレイ半島の、ゴム林の中から傳へられました。

それは支那人の猿使ひが土人の爲めに計られて、お金ばかりか大切な生命まで奪はれて了つたので、お猿さんも殘念でたまらず、土人が河の中に投げ込んだ死骸を引きあげて之を砂中に埋め、通りかゝつた英國人の袖を引いて死骸を置いてある場所と土人の家へ案內し、首尾よく土人の無念をはらしたといふので、同地方では大へんな評判ださうであります

◆答へない理由

數師算術の時間に『太郎さん、十から八を減けば何程殘ります？』

太郎モジ〳〵して『僕は先生を敎へに來たんではありません、先生に

旅館

和洋御料理一切

室內に改良を加へ取扱ひ丁寧に可致候間御投宿被下度願上候

聖市コンデ街四九

上地彌藏

郵函一二二五番

電話五七〇一セントラル

◁トウミ（唐箕）賣出し▷

職工募集（多少經驗ある方）

自宅勞働の方も便りあり委細は問に店當細したれは

京東ザーカ

本店　聖市　ロバ。デ。ンロニガンニチペタイ○

支店　ラライデ。サンタ。ヤニエジイフエ九二

電話　三六〇三（トンネル）　一九六三（ダンデ）

函郵　一五〇一

CASA TOKIO

R. B. Itapetininga, 20 Tel.3036-Central " 1963-Cidade

日本金兩替

●金銀貨多少に拘はず兩替可申上候

ブラジル語獨習

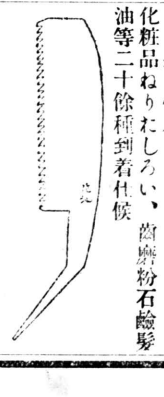
紙數三百十二頁　送料共六ミル

發行所　秀英舍

日本に於て最優等の本を探せしも未だ本書以上に勝れる者を見ず內容は單語大多數なれば初學者の爲には殊に便利なり

化粧品ねりわたしろい、齒磨粉石鹼髮油等二十餘種到着仕候

◎新荷着



●土佐片地黑打上等品

尺八寸十八ミル、二尺二十二ミル、二尺二十六ミル、二尺四寸三十三ミル、二尺六寸三十五ミル、二尺八寸四十ミル、三尺四十五ミル、ガンド二尺二十四ミル送料二尺二寸迄一枚に付二ミル、備中クワ上十二ミル、備中クワ中八ミル、鎌（カマ）三ミル五百、二枚カンナ七ミル、ワキ取り五ミル、大工鋸橫尺一寸十三ミル、同立尺十二ミル同橫八寸十三ミル、同立八寸十ミル、笹齒鋸尺一寸十三ミル、笹齒鋸尺十二ミル、差金鐵六ミル、土佐鋸齒組一ミル、前丁ナ（柄付）十ミル、前丁ナ柄櫻四ミル、墨坪用ケヅリ墨百目入一袋十ミル、五十グラム一ミル五百、土佐鋸ヤスリ一ミル、大々一ミル二百、大工ヤスリ小七百大中八百レース

○ノミ柄輪金大小○割刀砥石七針○大村砥石十針（目方約五キロ）○本山青砥石十二針（二キロ半）○タ、キ六分ノミ二針五百レイス、○金剛砂一袋五百○其の他大工道具類各種○大算盤八針○ポケット入ろばん各種○かもじ○口紅○白粉○日本齒揚子○齒磨粉

●貸本可仕候

ブラジル時報市內申込所

聖市コンデ　サルゼーダス街五一番

木藤商會

大澤醬油取次所 KIDO SHOKAI

Caixa Postal 1466

R. C. Sarzedas 51

S. Paulo

◎各國電報

●伊太利軍の大捷

◇トレント、トリエステ占領
◇捕虜八萬人
◇戰利砲一千六百門

伊太利軍は去る二日拂曉大攻勢に出で破竹の勢を以て墺軍に肉迫し激戰數時間の後墺軍は總退却を開始したれば伊軍は直ちに之れが追擊に移り長驅して遂にトリエステを占領し敵兵八萬を捕虜となし砲一千六百門を捕獲したり、之と同時に伊太利海軍は陸戰隊を上陸せしめて完全にトリエステを占領したり（羅馬發三日電）

●伊太利と墺國休戰條約調印

伊太利は墺地利洪牙利の提唱を容れ去る三日休戰條約を調印交換し四日午後三時全く戰鬪を休止したり（巴里發五日電）

●洪牙利の分立

洪牙利は墺地利より分立しカロルイイ伯を臨時主權者となしたり然れども王國となすや將た又共和政體を採用するやは未だ決定せずと（ヅリツヒ發二日電）

●聯合側と土耳古休戰

聯合側は頗る有利なる條件の下に土耳古と休戰條約を結び去月三十一日正午を以て戰鬪を休止せり（倫敦發一日電）

◎雜報

●御信任狀捧呈

今回無事着任ペトロポリスに旅裝を解かれたる駐伯帝國公使堀口九萬一氏は本日午後伯國大統領に對し御信任狀捧呈せらるべしと

●宮島博士衛生局長訪問

宮島博士は本日敬意を表すべく州衙生局長アルツール、ヂーヴア氏を訪問せられし處氏は大なる好意を以て博士を迎へ特に博士今回の研究に對してはブータンタンの研究所を開放すべしとて其の使用を勸め更に局長自から案內役となり內務長官オスカル、ロドリーゲス氏に引き合はすなど實に丁寧懇切を極められたりとのこと。

●愈々平和乎

▽墺國及土耳古を失ひたる獨逸は倍々窮迫
▽カイゼル廢帝乎
▽獨逸休戰を提唱せりと

墺地利及び土耳古兩國が聯合側と休戰條約を調印したるを以て獨逸は單獨にて聯合軍に對峙せざるべからざるの運命に陷れり而かも歐洲の野に於ける英、佛、米の精兵は獨逸を攻撃して前進又前進し居れば獨軍を佛國の北部より驅逐し得るの日は遠からざるべく聯合軍の最も得意の時機は到來したのであるが之に反し獨逸の內情は頗る慘憺たるものにして內亂の兆諸處に萌し獨逸聯邦の一大勢力たるババリヤ國は平和を絶叫し獨逸若し戰爭を繼續せば同國の軍隊を引揚ぐべしと揚言し剩へカイゼル廢帝の讓喑しく、カイゼルは逃支度として諸威國に私有地を購入したりとも傳へられ、噂は更らに噂を生み昨日突如として獨逸が聯合側に休戰を提議したりと歐電が報せしが未だ公報に接せざれば容易に信を置きがたきも獨逸の現狀を觀ふときは戰爭繼續は難事中の難事なるのみならず獨逸をして益々不利の位地に立たしむるものなれば如何に強情我慢の獨逸も今度は膝を屈して聯合軍側の要求を容れない譯にはゆくまいと思ふが果して事實は如何、こゝ暫くは見物なり。

聖市日本人の流行感冒は

◆追々下り坂

◇まだ油斷はならぬ◇

◇小さいものだと云つて侮り難いものは病菌である、今ま殆んど世界的に流行してゐるグリッペ、エスパニヨーラと云ふ病菌は、顯微鏡で千六百倍位ひに擴大しても針の頭より小さな黴菌で、少し日光に晒せば直ぐ死んで仕舞ふ樣な弱い菌であるにも拘はらず、一と度咽喉に喰い込んだが最後、六尺に垂ん〳〵とする雲突く大男をもウン〳〵と唸らせるのであるが

◇此の弱小菌で先頭第一に惱まされた江越農學士や、鹿野日伯主や、宮崎先生なぞは今は元氣恢復して平生と異りはないが、嶺氏や、翁長氏や屋比久氏や、成瀨氏等は大分強くあてられて、中には棺桶の心配までされた人もあつたさうであるが、小敵はあるが、まだ惡疫はなつたは吾れ人共に喜ばしいことでたりとて、侮り難いとはこんなものを云つたのであらうか、さても油斷はならぬと思ふ、

◇殊に地方在住の同胞は之が豫防に深き注意を拂はぬと、何時都市の病菌が田舍を見舞はぬとも限らぬから、當分は他所者との接觸には警戒を加ふるがよかるべし、

◇然し彼れ弱小菌も公平を解するものと見へ、上は大統領より下は一行商に至るまで一樣に見舞はつてゐる樣であるが、日本人の間でも殆ど戶別、人別訪問をした樣である、殊に小笠原氏一族四十餘名一人殘らず感冒の神が洗禮を施したに至つては如何に輕かつたにせよ寧ろ公平が過ぎて御氣の毒である、

◇若し此の公平主義で去月下旬新來の移民諸氏を見舞つたならそれこそ大變であつたのであるが、幸にして當局の深甚なる注意で着後三日間に去る三日リオ市に赴き同地より歸聖せられたり

●讃岐丸のリオ出帆期

去月三十日サントス出帆リオ經由プエノス行きの「讃岐丸」はリオ市に於けるコレラ流行の爲め人夫に不足を生じ今回の出帆すべしと云ふ

●宮島博士神谷專務歸聖

海外興業會社專務取締の信夫淳平氏は珈琲園視察の爲め去る一日リベイロン、プレト方面へ出張中の處本日歸聖せられたり

●飯野氏陸路歸店

大阪商船會社プエノス支店の飯野佐一氏は病後衰弱の爲め海路讃岐丸にて歸店の筈なりしも同船のリオ出帆延期とアルプス丸プエノス入港の爲めとで急に行路を變更し去る四日オーランド汽車にて歸店の途に就かれたり

●白鳥氏出聖

イグアペ植民地の白鳥堯助氏は社用を以て去る一日出聖せられたるも流行感冒の爲め諸官衙休業の姿にて一向要領を得ずと零し居らる

●江越技師一行歸聖

去月下旬事業地踏査に上られたる海外興業會社の江越、久保田、福川の三氏は本日歸聖せられたり

●土地

最良土地を最良條件の下に賣却す希望の者には明細書（邦文）送付すべければ左記へ照會あれ

代理人　矢崎節夫
Villa Costima L. Mogyana
コスチーナ
土地殖民會社
Dr. Labieno da Costa Machado
R. Barão Itapetininga, 13A
S. Paulo

◆若き野營の士官から 妻への內證手紙

◇屈辱的平和の迫れる今の胸の中果して奈何◇

英國の軍人が戰地にあつて、一ケ月に一度三日間の賜暇を得て鄕里に歸り妻の顏を見て再び戰場に行くと云ふ事は日本人などには一寸思ひも寄らぬ事であるが、最近戰地に居る獨逸の一陸軍士官から、其妻に宛てたる信書に依ると、獨逸では一家族中で三人以上出征して居れば、其長男若くは、家族中の高級者が一ケ月に一週間歸鄕して其家庭を見舞ふ事が出來る、之に反し一戶で二人出征して居れば一ケ月に二日、其の以外は全く許されないさうである、左に記す一片の手紙は一昨年二月に第三十九軍に從ひ某方面に出征した陸軍士官であつて、其の當時獨逸軍人の意氣甚だ壯なるの證として謳歌されたものであるが其後形勢一變屈辱的平和を餘儀なくさるゝ今となつては總ての努力も結局水の泡若し此の若き武裝も苦しき戰鬪も決して厭はぬ、若し獨逸帝國が出征軍人の留守を守れる家族を擁護し、生活の保障と安全を永久に與ふるならば、吾等は喜んで犧牲となり國家に盡さん、軍人は永久に戰鬪を繼續して世界平和の爲めに盡さん、

小生出征の際マテリオ停車場にて

あらう。手紙に曰く、『親愛なる妻よ、チャードよ、父は如何に、母は如何に、愛子ルイスの成長は如何、ゴーレン將軍の指揮の下にある小生は極めて愉快なる生活に依つて戰爭を續けて居る、始めの苦痛と不自由は今や全く雲散して、初期の目的は着々として實現せられつゝあるので、重妻よ今回の戰爭は獨逸運命の分岐點である、吾等の祖先が幸福なる生涯を送つた事を思はゞ其恩澤を感謝すると同時に、吾等の子孫が亦幸福なる生涯を享くべく、吾等は最善の努力と犧牲とを國家に支拂はねばならぬ、

◎雜報

●御信任狀捧呈

今回無事着任ペトロポリスに旅裝を解かれたる駐伯帝國公使堀口九萬一氏は本日午後伯國大統領に對し御信任狀捧呈せらるべしと

●宮島博士衛生局長訪問

宮島博士は本日敬意を表すべく州衙生局長アルツール、ヂーヴア氏を訪問せられし處氏は大なる好意を以て博士を迎へ特に博士今回の研究に對してはブータンタンの研究所を開放すべしとて其の使用を勸め更に局長自から案內役となり內務長官オスカル、ロドリーゲス氏に引き合はすなど實に丁寧懇切を極められたりとのこと。

●愈々平和乎

▽墺國及土耳古を失ひたる獨逸は倍々窮迫
▽カイゼル廢帝乎
▽獨逸休戰を提唱せりと

墺地利及び土耳古兩國が聯合側と休戰條約を調印したるを以て獨逸は單獨にて聯合軍に對峙せざるべからざるの運命に陷れり而かも歐洲の野に於ける英、佛、米の精兵は獨逸を攻撃して前進又前進し居れば獨軍を佛國の北部より驅逐し得るの日は遠からざるべく聯合軍の最も得意の時機は到來したのであるが之に反し獨逸の內情は頗る慘憺たるものにして內亂の兆諸處に萌し獨逸聯邦の一大勢力たるババリヤ國は平和を絶叫し獨逸若し戰爭を繼續せば同國の軍隊を引揚ぐべしと揚言し剩へカイゼル廢帝の讓喑しく、カイゼルは逃支度として諸威國に私有地を購入したりとも傳へられ、噂は更らに噂を生み昨日突如として獨逸が聯合側に休戰を提議したりと歐電が報せしが未だ公報に接せざれば容易に信を置きがたきも獨逸の現狀を觀ふときは戰爭繼續は難事中の難事なるのみならず獨逸をして益々不利の位地に立たしむるものなれば如何に強情我慢の獨逸も今度は膝を屈して聯合軍側の要求を容れない譯にはゆくまいと思ふが果して事實は如何、こゝ暫くは見物なり。

聖市日本人の流行感冒は

◆追々下り坂

◇まだ油斷はならぬ◇

◇小さいものだと云つて侮り難いものは病菌である、今ま殆んど世界的に流行してゐるグリッペ、エスパニヨーラと云ふ病菌は、顯微鏡で千六百倍位ひに擴大しても針の頭より小さな黴菌で、少し日光に晒せば直ぐ死んで仕舞ふ樣な弱い菌であるにも拘はらず、一と度咽喉に喰い込んだが最後、六尺に垂ん〳〵とする雲突く大男をもウン〳〵と唸らせるのであるが

◇此の弱小菌で先頭第一に惱まされた江越農學士や、鹿野日伯主や、宮崎先生なぞは今は元氣恢復して平生と異りはないが、嶺氏や、翁長氏や屋比久氏や、成瀨氏等は大分強くあてられて、中には棺桶の心配までされた人もあつたさうであるが、小敵はあるが、まだ惡疫はなつたは吾れ人共に喜ばしいことでたりとて、侮り難いとはこんなものを云つたのであらうか、さても油斷はならぬと思ふ、

◇殊に地方在住の同胞は之が豫防に深き注意を拂はぬと、何時都市の病菌が田舍を見舞はぬとも限らぬから、當分は他所者との接觸には警戒を加ふるがよかるべし、

●讃岐丸のリオ出帆期

去月三十日サントス出帆リオ經由プエノス行きの「讃岐丸」はリオ市に於けるコレラ流行の爲め人夫に不足を生じ今回の出帆すべしと云ふ

●宮島博士神谷專務歸聖

海外興業會社專務取締の信夫淳平氏は珈琲園視察の爲め去る一日リベイロン、プレト方面へ出張中の處本日歸聖せられたり

●飯野氏陸路歸店

大阪商船會社プエノス支店の飯野佐一氏は病後衰弱の爲め海路讃岐丸にて歸店の筈なりしも同船のリオ出帆延期とアルプス丸プエノス入港の爲めとで急に行路を變更し去る四日オーランド汽車にて歸店の途に就かれたり

●白鳥氏出聖

イグアペ植民地の白鳥堯助氏は社用を以て去る一日出聖せられたるも流行感冒の爲め諸官衙休業の姿にて一向要領を得ずと零し居らる

●江越技師一行歸聖

去月下旬事業地踏査に上られたる海外興業會社の江越、久保田、福川の三氏は本日歸聖せられたり

●土地

最良土地を最良條件の下に賣却す希望の者には明細書（邦文）送付すべければ左記へ照會あれ

代理人　矢崎節夫
Villa Costima L. Mogyana
コスチーナ
土地殖民會社
Dr. Labieno da Costa Machado
R. Barão Itapetininga, 13A
S. Paulo

旅館、和洋御料理
月見亭
尙ほ旅宿者の便を計る爲め今回聖市の事情に委しき人を雇ひ入れ買物其他一般の案內手引を致すべく候
聖市コンデ街六九
村野
電話四五五九センドラル

尋人
古賀利三郎　當年二十才
福岡縣淨羽郡稻富村字竹重
竹村第五回移民
國許の親病氣の爲め至急右の現住所知りたし本人又は同人の現住所御存知の方は乍御手數左に御一報被下度願上候
猶ほ御通知次第參上可仕候
聖市モッカ街五二六番
大澤商店
竹細工部、醬油釀造部
木藤商會へも本店同樣御愛顧願上候
R. da Mooca 526, S. Paulo

芳香美味
竹印醬油
一瓶一弁七百レース
聖市モッカ街五二六番
大澤商店
竹細工部、醬油釀造部
木藤商會へも本店同樣御愛顧願上候
R. da Mooca 526, S. Paulo

旅館並に醬油、賣藥取次
柿內直吉
(Caixa Postal 77)
Estação Catanduva
Linha Norte de S. Paulo

新式『ホワイト、ミシン』器販賣
ホワイト式ミシン器は嶄新流行使用輕便刺繍には好く適用せらる
特に廉價の月賦拂の法便あり
御申越あらば直ちに定價表持參御相談に參ります若し購買希望者を御世話下されし場合は賣買契約成立と同時に手數料を御拂ひ致し升
シンガミシン器も同樣の條件にて販賣致し升
Tagahara Kenji
Caixa Postal 344　Rua Quintino Bocayuva 76A

地方會員諸君へ
今回讃岐丸にて渡伯されたる新會員の原籍、配耕地名次の如くに候
福島町會根田町　佐藤文治
豫の手續をなさぬ爲め國許より再三嚴重なる書面あり、本人の現住所御承知の方は左記へ御一報被下度候
佐々木彌太郎
Faz. Cia. Barboza
Est. Ourinhos
L. Sorocabana
福島縣人會
Caixa Postal 1317
S. Paulo

尋人
佐藤力藏
福岡縣淨羽郡山春村字山北
數年前出耕したる儘行衛不明徵兵猶
信夫郡瀨の上町寺後　小野寺美代治
サンタ、エサベル耕地
オウリウニョス停車場
ソロカバナ線、バラナ州
福島縣人會
Caixa Postal 1317
S. Paulo

穀物仲買廣告
但しソロカバナ線及ノロエステ線に限る
一、籾　二〇〇俵以上
一、伯豆　二〇〇俵以上
一、棉　五〇〇アローバ以上
一、唐黍　五〇〇俵以上
一、御通知次第參上可仕候
一、賣價と期限御約束定まり候上は空袋は直ちに御地驛宛送附仕る可く候
一、代價は現物御地驛當着次第引換に全部支拂申上ぐ可く候
大正七年正月五日
電話　三番
S. YAMAGUCHI
Nucleo Colonial Momjão
Estação Cerqueira Cezar
Linha Sorocabana
山口三之助

お斷はり

「時報」は第六十號を十月二十五日（金曜）に、第六十一號を三十一日天長節祝日に發刊し即日讀者諸君に發送せしも其の後確聞する處に依れば當市の激烈なる流行感冒は郵便局へも侵入し之が爲め多數の局員休業の止むなきに到り郵便物（時報も含む）亦停滯して局內山積の憂目に遇ひ又弊社にも最近三名の患者發生の爲め「時報第六十二號の發刊は遂に二日を遲れ旁々以て讀者愛讀の厚意に背きたるを遺憾とす、然れども今回の如き流行病の蔓延は一種の不可抗力とも云ふべきものにして殆ど防禦の道なきを以て茲に其の事情を述べて讀者諸君の寬恕を乞ふ次第なり。

伯刺西爾時報社

9 de Novembro de 1918 No. 62　Noticias do Brazil　大正七年十一月九日　土曜日　第六十二號

長篇講談

第七席　平内不動尊に祈願のこと

君代、平内、忠僕良助の嘆きは一方ならず、天地に泣き悲しみましたが逝きし者は再び歸らず、人々に慰められて野邊の送りも盛大に營み、四十九日や百ヶ日の問ひ弔ひも濟ませ人の後を慕ひ歸らぬ旅に赴きました流石の豪傑も瞬く間に兩親を失ひ、目を泣き腫らし傍の見る目も憫れで御座いまする、其處で平内は忠僕良助と共に葬式萬端を濟ませた後は、君代は又も病の床に臥し、平内は夜の目も寢ずに介抱いたしましたが、其の甲斐もなく半月ばかりで到頭良助は大ひに心配いたし『良』モシ旦那樣左樣貴方の樣にふさぎ込んで了いなさつては、却つてお身體の毒でございます、御兩親樣は定命でお死亡なさつたと思つてお諦らめなさるより外に仕方は御座いません、私は貴方樣で丁度三代御奉公申し上げて居りますので、何の樣に悲しいか知れませんが、お父樣が最後の際に、コレ良助悴平内が未だ若いから、何うか氣を附けて呉れと仰しやつた事が、未だ耳の底に殘つて居ります、依つて死ぬるにも死ぬる事は出來ず、何程苦しいか判りません、貴方に若しもの事がございましては、私はお父上樣や奥樣に濟みません、どうぞ氣を取り直して下さいませ』と、深切に主人の身體を勞はり慰めますゆゑ、平内も涙を流し『オ、良助や乃公は最う御奉公するのも厭になつた然し決して心配するな死ぬる樣な事はない、聖人の教へにも身を立て名を現はす孝の終りなりと云ふ事があるゝ、乃公は之より大きに天下に名を揚げんと考へて居るのだ、夫れに付ては斯う云ふ小藩に仕官して居つては迚ても目的を達する事は出來んと思ふから、殿樣にお暇を願つて見やうと思ふが何うであらう』すると良助は『良』ヘエ、、マア私等の考へと貴方樣のお胸の中とは、雪と墨ほどの相違がございますゆゑ夫れを惡しいとは申しませぬが、兎に角能く考へての上の事になさいませ『平』オ、此の間から色々思案をして居るのだ就ては云つて置くが萬一乃公が居らん樣な事になつた時には、此の家の諸道具一切から貯の金子迄も皆其方の者であるに依つて此處を片付て久米村へ引越し世を安樂に送つて呉れ、岐度申し渡したぞ『良』アレ若旦那樣左樣な事を仰つしやいますな、私は悲しうて堪りません』平『イヤ左樣云ふ事もなからうが、若しも有つた節には左樣して呉れと賴んで置くばかりだ』と、主從兩人は互ひに睦じく物語つて居りまする、偖ても豪傑傑平内兵衞長守も、俄かに兩親を失つて盲目の杖を失つた如くでございますが、僅かに忠僕良助に慰められ最早喪中も濟みましたるに依り、又しても登城の上殿樣のお側に詰め切つて居りまする、然るに平内兵衞熟々考へまするに『平』何うも仕方がない、如何に殿樣のお覺え目出度く御寵愛を蒙るつて幸福であるとは云へ、斯樣な小さい處で出世した處が知れたものだ、江戸表は天下の豪傑武藝者が澤山集つて居ると聞き及ぶから、是非共江戸へ出て一旗揚げたい者である』と、斯う云ふ大望を抱きまして數日殿樣に向つて『平』君樣に御願ひが御座いまする』殿『オ、平内、何斯樣々々で是非共江戸表へ乘り出したいと心得ます、何卒願いを叶へて下さい、平内兵衞長守が一生のお願でござると、一心不亂に願籠に及んで、丁度九十九日の間雨の夜も風の夜も、一夜も缺さず參詣をいたしまして、愈々今夜が滿願の百日目と相成つて、平内兵衞長盛は書尚ほ暗き森の中、只一つの常夜燈が仄かに點譯にも參りませんが、加納子爵夫人がお話の御精神に基いて伯國に當て篏る樣に、お互ひ勤めて見るならば大變有益だと考へまして御紹介することに致しました

（きよ子）

◆久能村の婦人活動

私は（加納夫人）娘ど共に視察團の世話係をつとめ、皆樣と一緒に靜岡縣地方を巡廻致しましたが到る處官民諸氏から非常な歡待を受けまして、姉妹樣の熱心にお働きになる處を親しく拜見し多大な利益を得ました、中にも私の最も深く感心したことは靜岡市に近い久能村を視察したときのことであります、これは私一人の感じたことでなく、視察團のごなた樣、毎夜お願ひ申す通り、某は今龜井家に仕へて御寵愛を蒙むる幸福な身の上ではござるが、然し男と生れた甲斐には天下に名を揚げて家名を輝かしたいと存じます、左れば是非共江戸表へ乘り出し英雄豪傑と交はり不動樣とは親類同樣の間柄、云々斯樣々々で是非共江戸表へ乘り出したいと心得ます、何卒願いを叶へて下さい、平内兵衞長守が一生のお願でござると、一心不亂に願籠に及んで、丁度九十九日の間雨の夜も風の夜も、一夜も缺さず參詣をいたしまして、愈々今夜が滿願の百日目と相成つて、平内兵衞長盛は書尚ほ暗き森の中、只一つの常夜燈が仄かに點譯にも參りませんが、加納子爵夫人がお話の御精神に基いて伯國に當て篏る樣に、お互ひ勤めて見るならば大變有益だと考へまして御紹介することに致しました

（きよ子）

◆久能村の婦人活動

私は（加納夫人）娘ど共に視察團の世話係をつとめ、皆樣と一緒に靜岡縣地方を巡廻致しましたが到る處官民諸氏から非常な歡待を受けまして、姉妹樣の熱心にお働きになる處を親しく拜見し多大な利益を得ました、中にも私の最も深く感心したことは靜岡市に近い久能村を視察したときのことであります、これは私一人の感じたことでなく、視察團のごなた樣も同じく感じたことゝ信じます、そしてこの感ずべき話は私共にも實行の出來ることでありますし、また皆樣方にも同じく御實行の出來ることゝ思ひますから之を有のまゝに述べて見ようと思ひます

◆ここでも二百圓以上の貯金

靜岡縣の久能村と申すところは德川家康公の靈廟のあるところで、冬なごでも大層暖いため、之を利用して野菜類の促成栽培が盛んに行はれ、春もまだ寒い頃東京の市中に現はれる早作の母だの、胡瓜だの、其の他あらゆる早作の野菜物が、多くこの久能村から出るのであります唯だこれだけでは別に珍らしくもありませんが、是が多く婦人の働きによつて出來てゐると聞いては感心の外はありません、もと〳〵此の久能村と云ふところは近年まで大層疲弊した村であつたのが、何う云ふ動機からであつたかは聞き漏しましたが兎も角皆んなの村民が精を出して働き、草木も寢靜まると云ふ夜の丑滿時に、毎夜々々人目を忍んで屋敷を拔け出でて不動堂へ出て參り合掌禮拜いたしながら『平』モシ不動樣、私は此のお堂の中で生れた者で、云はゞ不動樣とは親類同樣の間柄、云々斯樣々々で是非共江戸表へ乘り出したいと心得ます、何卒願いを叶へて下さい、平内兵衞長守が一生のお願でござると、一心不亂に願籠に及んで、丁度九十九日の間雨の夜も風の夜も、一夜も缺さず參詣をいたしまして、愈々今夜が滿願の百日目と相成つて、平内兵衞長盛は書尚ほ暗き森の中、只一つの常夜燈が仄かに點譯にも參りませんが、加納子爵夫人がお話の御精神に基いて伯國に當て篏る樣に、お互ひ勤めて見るならば大變有益だと考へまして御紹介することに致しました

（きよ子）

婦人欄

女の働きで一村が富だ

（上）

近頃『主婦の友』と云ふ雜誌を見まきすと、子爵加納久宜氏夫人いつ子と云ふ記事が出來、どんな小さな家の君が婦人實業視察團のお世話係でも二百圓以上の貯金をしてゐないりで、田舍を巡廻なされた實見談處はないと云ふ景況であります。が出て居りましたから、姉妹方の男子の方も無論よく働きますが、殊御心得にもと考へて茲に轉載する に婦人方の働くことは他所で見るここに致しました、尤も伯國は母ことのできない有樣であります、久能國とは事情や習慣が異つて居りま村の婦人方は夜もまだ明けぬ午前三すから、一概に母國の眞似をする時には何處の家でも起き出て、前夜準備しておいた野菜類を車に積み、之を靜岡の市場まで輓いて參ります久能村から靜岡市までは約三里ありますが、此の間を往復して歸ると直ぐに野菜物の手入をいたし、夕方になればまた翌朝持つて行く野菜の仕度をして置くのであります、其の日その日の賣上代は、靜岡の銀行に預けて歸る者もあれば、村の信用組合に預ける者もあります、かくして溜つた金が前のやうに巨額となつたのであります、かうしたまゝ〳〵しい働き振りは見ただけでも私共婦人の刺戟になるほどであります。（續く）

ANTUNES DOS SANTOS & COMP.
AGENTES DAS COMPANHIAS
NIPPON YUSEN KAISHA :: OSAKA SHOSEN KAISHA

日本郵船會社定期船
讃岐丸
十一月十日リオ港發
同十五日ヴェノス港着

大阪商船會社定期船
あるぷす丸
十一月二十日ヴェノス發
同　二十五日リオ港着

御用の方は左記の中何れかへ御照會ありたし
伯剌西爾移民組合支部
(Caixa Postal 1088)
Rua Vergueiro 15, S. Paulo.
アンツーネス、ドス、
サントス會社
(Caixa Postal 237)
Rua Libero Badaro 93, S. Paulo.

經濟と佳味を
兼ねたる最好の副食物
骨抜き上等鹽たら
一箱　八罐入にて一罐正味五キロ入
一キロに付聖市渡し三ミルレース也
直接御注文は一箱以上にて賣ることゝ
日本貿易株式會社
聖市出張所
Rua Vergueiro, 15 S. Paulo (Caixa Postal 1714

特約店
Estabelecimento Ultramarino, Rua Visconde de Inhaúma 58, Rio de Janeiro
同　Ignacio Ucho, Rua Norte do S. Paulo
同　Giovannetti Giacomo & Filhos, Rua Guarany, Santos
同　Giovannetti Giacomo & Filhos, Rua Paulista
同　Manoel Monteiro, Rua Mogyana
同　J. Bignardi Pedro & Cia. Rua Cathedral 29, Rua Norte do S. Paulo
同　Amor Garcia & Cia. Rua Bittencourt, Rua Visconde do Rio Branco
同　Silva, Monteiro & Cardoso, Rua D. Sebastião, 54-56 Ribeirão Preto
同　Costa & Rosicllo, Rua José Bonifacio e D. Sebastião, 16 Ribeirão Preto